

第 1 章

町 の 概 況

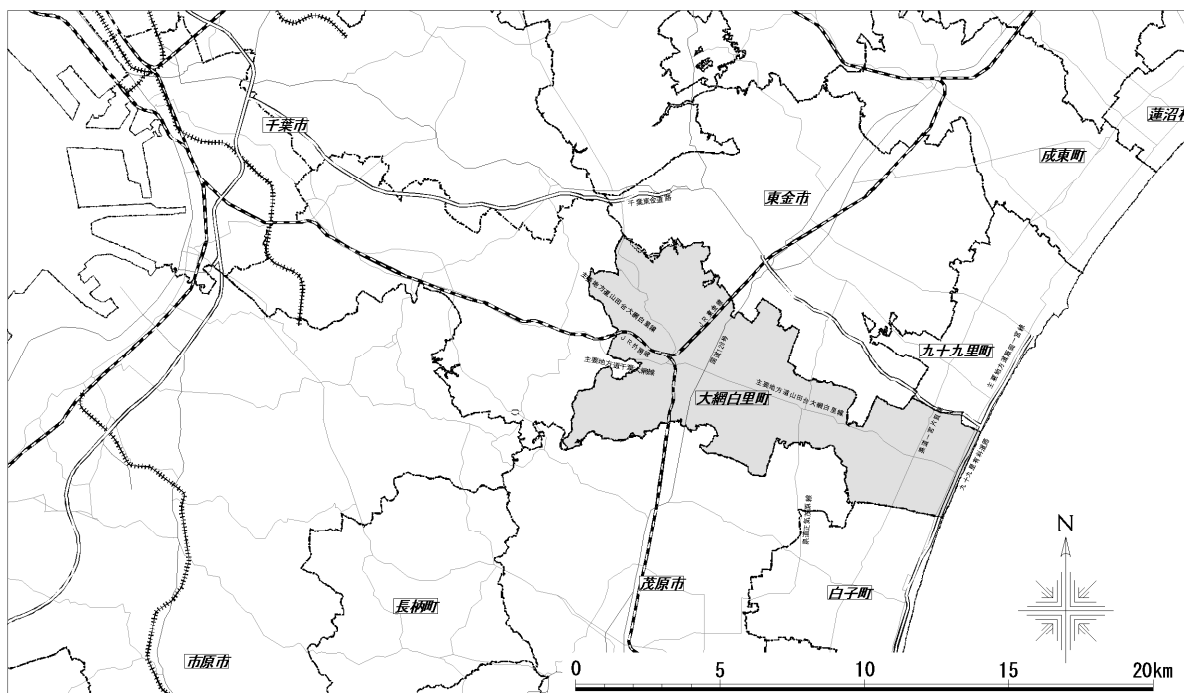
第1章 町の概況

1-1 位置・地勢

本町の地形は、東西約 14 km、南北最長 7 km(最狭部約 1 km)で東西に長く、西は南北に走る標高 80~100mの下総台地の丘陵で、東は白砂青松の九十九里浜、中央は田園が広大に開ける穀倉地帯の九十九里平野からなっています。

本町の気象は黒潮の影響を受け、冬でも温暖な海洋性気候の特色を有しています。平成 7 年から 18 年における平均気温は 14.7~15.9℃程度です。

◆ 位置図



1-2 町の沿革

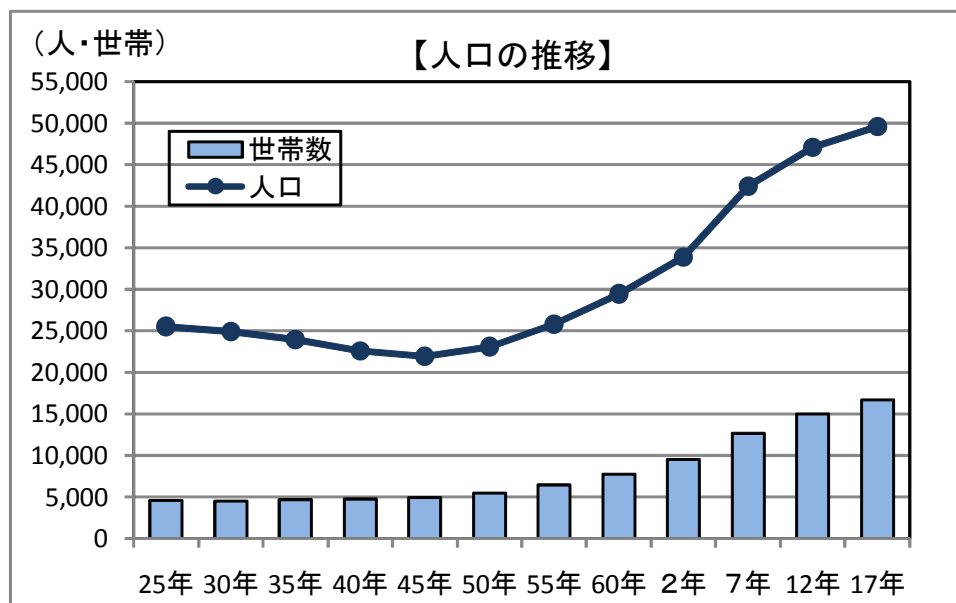
本町は九十九里浜に面し気候が温暖なことから、古代より人が住み着き漁業や農耕を営んでおり、山辺地区周辺では、縄文期の遺跡が多く存在し、出土品も多く発見されています。室町時代末期には、土気城主の酒井定隆が、土気城再興の際、魔よけとして縣神社を創建し、本町を含む領内の寺院を日蓮宗に改宗しました。徳川家康の治世下では、本地域は、幕府の直轄地となりました。また、本納、一宮等周辺地域での「六斎市」の設置に伴い本町にも市が立ち、街道沿いに商家の建ち並び町並みが形成される一方、沿岸部ではイワシの地引き網漁が発達し、それを利用した加工業とともに地域経済を大いに潤しました。

近代になると、明治元年 12 月に「房総知県事役所」を今の長南町から本町に移し、宮谷(みやざく)の本国寺が仮庁舎になりました。また、明治 2 年 2 月に庁舎所在地の名をとって「宮谷県」に改称され、明治 4 年 11 月の府落県の統合で木更津県になるまでのわずかの間ですが、本町が県政の中心地となりました。明治 21 年の「市政・町村制」公布以後、本町域の村々も幾多の統廃合を経て、昭和 29 年に大網町、増穂村、白里町が合併し、概ね現在の本町の姿となりました。

明治 29 年には蘇我～大網間に鉄道が引かれ、大網駅が設置されました。これにより農林水産物の大量輸送も可能となり、本地域は東京周辺の食料供給地として、また海水浴地として、その地位を強めていきました。

本町は東京都心から約 50～60 km 圏域にあり、JR 外房線と JR 東金線の分岐点に位置しています。昭和 47 年（1972 年）に国鉄の外房線の複線化・電化により、東京までわずか 40 分で結ばれるようになり、首都圏への通勤圏になりました。このような交通の利便性を活かし、町では 5 団地*構想を掲げ、民間活力を利用した住宅整備を実施し、社会増による人口増加が進みました。

平成 17 年現在の本町の人口は、49,548 人に達しています（昭和 45 年当時の約 2.26 倍）。



1-3 上位計画等における位置づけ

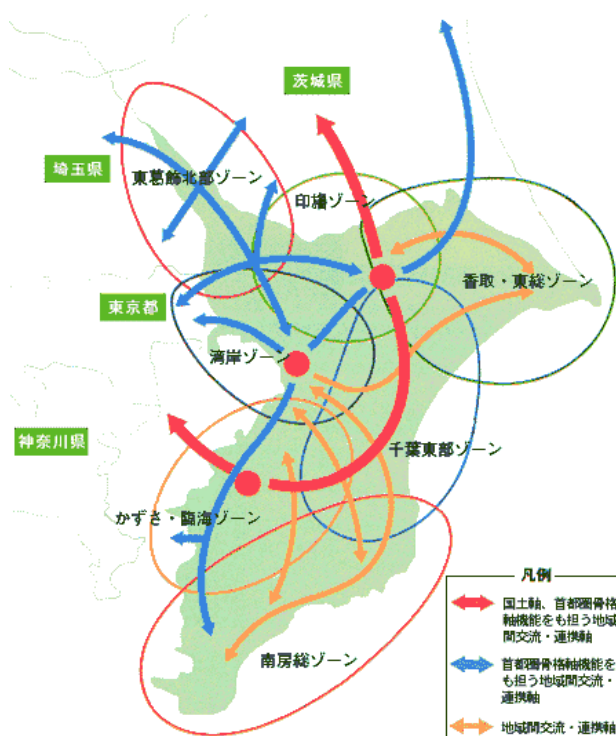
① 千葉県長期ビジョンーみんなでひらく 2025年のちば（平成11年3月策定）

「千葉県長期ビジョン」において、本町は「千葉東部ゾーン」に含まれています。

「千葉東部ゾーン」は『北東部ゲートウェイである成田空港の後背地として、国土幹線軸上に位置し、高い成長性と交流・連携のポテンシャルを持つ重要な拠点地域』と位置づけられており、次のような将来像が示されています。

◆ 千葉東部ゾーンの将来像

- 新産業創造・国際産業ネットワークの中核となる首都圏東側の新たな産業軸の中核である地域
- 都市住民との幅広い交流のもとで、多様化する消費者ニーズに対応する先進的農水産業が展開される地域
- 職・住・遊・学のバランスが取れた、ゆとりと活気が響きあう自立的な都市圏地域
- 九十九里浜等の豊かな自然環境やその恵まれた文化などの多様な地域資源と、広域交通ネットワークを活用し、スポーツや健康を志向するアクティブで健康なリゾートの形成と多面的な交流・連携の下で、親しみやすく活気に満ちた地域文化が発信される地域



② 長生・山武地方拠点都市地域基本計画（平成8年3月策定、平成18年4月改訂）

「長生・山武地方拠点都市地域基本計画」は、16市町村で構成される長生・山武地域の「職・住・遊・学」が備わった自立的な都市圏の形成を目指した地域整備の方向を目指したものです。この基本計画で本町は、東金市や茂原市とともに中央機能集積ゾーンとして位置づけられ、JR大網駅を中心に中高層業務住宅開発や生活交流拠点整備、土地区画整理事業が計画されています。

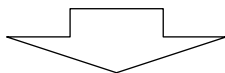


③ 大網白里町第4次総合計画

平成22年度を目標年次とする「大網白里町第4次総合計画」では、本町のまちづくりの課題、将来像、及び土地利用の将来目標等について、次のように掲げています。

まちづくりの総合課題

- ・JR大網駅周辺及び幹線道路沿道を中心とした賑いの創出
- ・排水整備等の生活基盤整備の推進
- ・子供たちから高齢者までが暮らしやすいと実感できるまちづくり
- ・地域間交流の促進による本町一体感の醸成
- ・住民参加のまちづくりの推進と、生涯学習等を通じたまちづくりの担い手の育成
- ・圏央道[※]整備時代に向けた、交流を中心とした本町の魅力づくり
- ・自然と都市が共生するふるさとと景観の維持
- ・行財政改革や広域的な連携の推進



基本理念

みんなであつろう
いきいきとした
“良い街” “良い故郷”

将来像

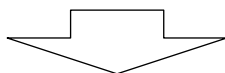
- 出会いと賑いのあふれる“たのしい都市”
- おもいやりとふれあいに満ちた“やさしい都市”
- やすらぎと対話のはずむ“さわやかな都市”
- 自由な個性と地域の誇りを育む“のびやかな都市”
- 利便性と快適性が調和した“たくましい都市”

将来フレーム

42,363人（平成7年）



56,000人（平成17年）
62,000人（平成22年）



土地利用の将来目標

- 職・住・遊など、複合的な機能を受け止めるための土地利用の推進
- 本町の中核となる都市的機能の形成
- 農業的土地利用の保全
- 豊かな自然の保全と緑の創出
- 交流地域の形成

④ 大網白里都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

本方針の中では、本町の都市づくりの理念を、「西部地域、中部地域、海浜地域それぞれの地域特性を活かすことにより、「明るく、豊かな、住みよい田園文化都市」を基本概念としながら、居住機能、産業機能、レクリエーション機能の3機能がバランスよく複合化し、多様な要素、多様な地域が一体となった複合都市の形成を都市づくりの基本理念としています。さらに、この理念を踏まえて、本区域の都市づくりの目標を次のとおり掲げています。

◆都市づくりの目標

- 自然と共生するまちづくり
利便性豊かな環境と心静まる環境の両方を一体的な空間として享受し、生き生きとした暮らしのできる自然と共生するまちづくりをめざす。
- 一体性のあるまちづくり
個性的な地域づくりを図るとともに、地域相互で連携・サポートしあいながら、情報、活動そして人びとの交流が心地よくできる一体性のあるまちづくりをめざす。
- 世代を越えたふるさとのまちづくり
ふるさと意識を醸成し、生活や活動のベースとなるライフタウンとなることで、次世代を越えたふるさとのまちづくりをめざす。
- 地域文化を創造するまちづくり
町のアイデンティティ（個性、独自性）を失わずに柔軟に対応できる地域文化を創造するまちづくりをめざす。

◆ 人口フレーム

区分		年次	
		平成 12 年	平成 27 年
都市計画区域内人口		約 47 千人	約 54 千人
市街地内人口		約 17 千人	約 26 千人

◆ 産業フレーム

区分		年次	
		平成 12 年	平成 27 年
生産規模	工業出荷額	約 123 億円	約 140 億円
	卸小売販売額	約 407 億円	約 570 億円
就業構造	第 1 次産業	約 1.5 千人 (7.1%)	約 1.5 千人 (6.0%)
	第 2 次産業	約 5.6 千人 (26.3%)	約 5.7 千人 (22.8%)
	第 3 次産業	約 14.2 千人 (66.6%)	約 17.8 千人 (71.2%)

◆ 市街地の規模

市町村名	年次	市街地の面積
		平成 27 年
大網白里町		約 632ha

